



日の丸 意味と歴史は 深い

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

私達が当たり前に目にする日の丸の歴史、意味をちゃんと知ってみたいとなりました。日の丸は昇る太陽をかたどつたもので、太陽は生命が生きるのになくてはならないもの、命の源です。この自然の恵みを「ありがたい」と感謝する日本人の心を表しているそうです。日の丸の白は清くげがれの無い気持、赤は偽りのない真心を表しています。

日の丸が歴史に登場するのは1300年前、文武天皇の時代の行事で使われたと続日本記にあるそうですが、もともと日本は古来から、太陽信仰があり、日本の皇室の祖としての天照神は太陽の神様です。

大和言葉で「平」は、はじまりという意味もあるそうです。太陽を大事にしていた私達の心のルーツがあるように思います。国旗に太陽を使用する国は全体の7%だそうです。

その7%のなかでも、日の丸は

シンプルで誰がみてもすぐに覚えてしまうインパクトがあると思います。そのせいか、明治時代にはフランス、イギリス、オランダから当時の額で2億円で売って欲しいと言われたそうです。

安心してください。もちろん売っていません。そんな日の丸は、バン格拉ディッシュが国旗を作る際に、日の丸のデザインを参考にしたという秘話があるそうです。

日の丸を愛するラモス

元日本代表サッカー選手ラモス瑠偉さんは、ブラジル出身でありながら、日の丸をとて愛してくれています。

その名言をご紹介します。

日の丸。最高だ。こんなに美しい国旗、他にないよ。どんなに苦しくても、膝が痛くても、日の丸をつけていると思うと頑張れる。

ワールドカップを見てみよう。みんなあんなに必死になつて戦うのは、国の代表だからだろ。国を愛し、家族を愛し、仲間を愛しているからだろ。日本はそこそこから外国に負ける。自分のためだつて？そんなの当たり前じゃない。

じゃあなぜ、もっと大きいものを背負わないの？オレ、日の丸背負ってなかったら、あんな頑張れなかったよ。

自分のためだけだつたら、とつづくに辞めてたよ。

編集後記

産まれた時から、日の丸が当たり前となつている私達ですが、長い歴史のなかで自然に感謝する心とみんなを思う和であり、まん丸な心を伝えてきた先人の想いに触れると、日の丸って本当にすごいのだな、とその重みがわかります。日の丸のようにシンプルにただ、純粹な気持ちと真心が大事であると日出る国の人の意識として、しっかりと刻みこみ生きていきたいものです。

1000年以上変わらない大事なことを思うように思えます。